

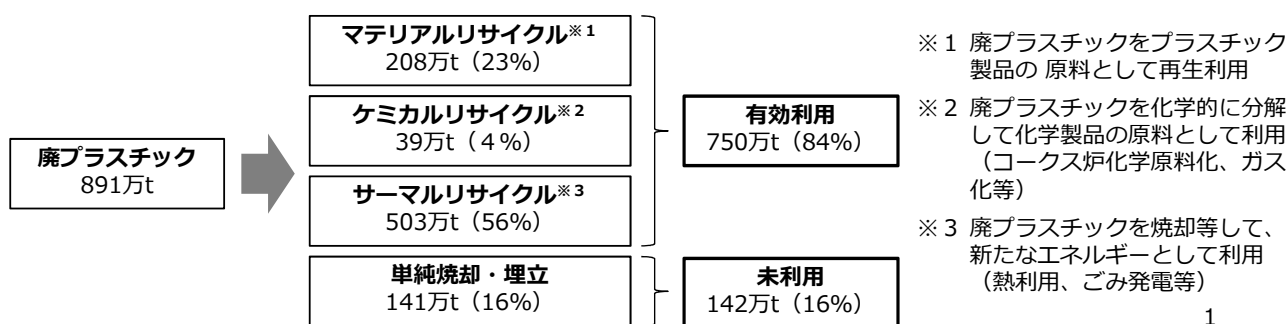
1 現状と課題

(1) 現状

自然界に流出すれば分解されずに残るプラスチックごみ削減に向け、令和2年度から海ごみ対策を含む「プラスチックごみゼロアクション」として、これまでの3Rの取組を徹底することを基本としつつ、新たな資源循環の取組を強化

(2) 課題

- レジ袋のコンビニ等での辞退率は75%を超え、有料化の効果が期待される一方、プラスチックごみに占めるレジ袋の割合は2%程度
- プラスチックごみ全体の削減・リサイクルの促進に向け、更なる取組が必要



平成30年度 廃プラスチックの処理フロー（出典：(一社)プラスチック循環利用協会）

2 令和元年度の主な施策

(1) ワンウェイ（使い捨て）プラスチックの削減

レジ袋有料化の動向を踏まえた各主体の取組状況、先進的な削減策等について情報交換を行う等、効果的な削減を促進
 （ワンウェイプラスチック：レジ袋、ストロー等）

レジ袋有料化の概要

対象店舗	小売業を営む全ての事業者
開始時期	令和2年7月1日
対象買物袋	持ち手のついたプラスチック製買物袋
	(例外) ①プラスチックのフィルムの厚さが50マイクロメートル以上のもの ②海洋生分解性プラスチックの配合率が100%のもの ③バイオマス素材の配合率が25%以上のもの
販売価格	事業者自ら設定（1枚あたりの価格は1円以上）

(2) 地域でのペットボトル回収事業

県の助成を通じて、現在3市（宝塚市、養父市、宍粟市）で行われているペットボトルの集団回収への補助事業を他市町にも拡大することで、リサイクルに結びつく回収を強化

3 施策の検討

(1) ワンウェイプラスチックの削減

- ① **小売事業者及び県民と連携したワンウェイプラスチック使用量の削減**
小売事業者等における使用実態の把握と削減目標の設定、県民への普及啓発
- ② **新たなペットボトルリサイクルシステムの構築に向けたモデル事業**
ボトルtoボトルの促進を目的とし、リサイクルしやすいペットボトル（キャップやラベルが外されている等）を回収するため、新たなリサイクルシステムの構築に向けたモデル事業を実施
- ③ **CO₂排出削減に結びつく効率的な回収・リサイクル方法の展開**
(市町との連携事業)
各家庭で分別した上で回収されたプラスチックの処理実態（マテリアルリサイクル、サーマルリサイクル）を把握し、CO₂排出削減に結びつく最適なりサイクルを検討

(2) 代替素材への転換促進

兵庫県内企業が開発した「カネカ生分解性ポリマーPHBH™（㈱カネカ）」や「高生分解性酢酸セルロース（㈱ダイセル）」をはじめとした生分解性プラスチック※の導入促進

※ 自然界に存在する微生物で、水と二酸化炭素に分解されるプラスチック

3

(様々な見方・課題)

- レジ袋に続く、石油由来のワンウェイプラスチック削減に向けた対象は何が考えられるか。
- ポリエチレンやポリスチレン等、多様な種類のプラスチックがある中で、適正なマテリアルリサイクルを促進できるか。
- 生分解性プラスチックは、素材の成形・加工等の課題が残るが、どのような用途への使用を促進すべきか。

4